

平成30年度 施政方針

「勝ち残るまち」西条へ ONE UP

市議会3月定例会が2月27日から3月19日まで21日間の会期で開会。初日に玉井市長が示した新年度の施政方針と具体的な施策の概要をお伝えします。

市

長就任以来「ワクワク度日本一の西条」の実現を目標に掲げ、地方都市自らが斬新な政策を展開し、都市間競争で「勝ち残るまち」を目指すことを主張してきました。そのためには「人」と「仕事」の好循環を創出し「まち」としての総合力を高めることが重要です。

既存の地方行政のフレームに固執することなく、国と地方が互いの垣根を超え、民間企業や高等教育・研究機関などとの連携を積極的に模索することで、斬新な政策を打ち出していく姿勢が求められています。

就

任1期目の4年間を陸上競技の三段跳びに例え、平成29年度を「大きく力強くホップするため」に助走を加速させる1年」と位置づけてきました。その足固めとして最も重視したことが、政策の効果を市

の隅々にまで浸透させるための体制づくりと、市職員の意識改革です。また、民間企業や高等教育・研究機関などとの連携も図ってきました。

昨年4月にベトナム・フエ市を訪れましたが、この4月にはフエ市長が本市を訪問します。この機会に友好都市提携を締結したいと考えています。また、昨年11月にはオーストリアを訪れ、セーボードン市と交流を深めたほか、2020年東京オリンピックでのスポーツクライミング代表チームの事前合宿誘致に向けた活動も行いました。今後も、海外関係都市との交流に努めます。

1月には、本市の学校教育分野へのICT導入事例が「第2回全国ICT教育首長サミット」で最高賞を受賞しました。今後は健康や子育て、高齢者の見守り、地域間格差の是正など、幅広い分野で積極的にICT

ポーツクライミング競技の聖地を目指します。

高齢者福祉の充実

高齢者と離れて生活している家族とのコミュニケーションツールとして、見守りロボットの設置に取り組みます。

スマートフォンでの位置情報を利用し、地域全体で認知症高齢者を緩やかに見守る人的ネットワークを構築します。

障がい者福祉の充実

聴覚障がい者が各総合支所においても円滑な窓口サービスが受けられるよう、テレビ電話を用いて手話通訳ができる環境を整備します。

子育て環境の充実

子育てモバイルサービスを導入し、各種情報の発信や予防接種のスケジュール管理、電子掲示板での相談支援などを行います。

旧耐震基準の市立保育所について、計画的に耐震化工事を行い、安全な保育環境を整備を図ります。老朽化した母子生活支援施設「くろみ荘」「すみれ荘」の2施設を統合します。

を活用していきたいと考えています。また、「ローカルベンチャー誘致・育成事業」など、独自の移住・定住策の推進にも注力していきます。

そのほか、市民生活に直結する施策として、全市における地域自治組織の設立を目指し、まずはモデル地域での活動を推進していきます。市民活動支援センターと連携し、若者会議・女性会議も試行しています。

土

を耕し、さまざまな種をまき、一つ一つ芽が出てきました。これから水や肥料をやり、花を咲かせていきます。政治とは「無限の理想への挑戦」です。本市が有する魅力や特性を生かしながら、新たな価値観の創造に向けた施策を展開し、西条に「住んでみたい」「住み続けたい」と思ってもらえるまちづくりを推進していきます。

新年度は、これまで加速した助走を生かし、力強く大きくホップする1年です。全ての分野で現在の本市が置かれている状況をもう一段階底上げしていくため「ONE UP」をキャッチフレーズとして、市民の皆さんに「ワクワク度日本一のまち」を実感してもらえよう、地域経済の底上げ、都市ブランドの底上げ、ひいては市民生活の底上げに向けて全力を傾注して邁進していく決意です。

市外在住の女性が気軽に参加し、西条の魅力を感じることができる結婚支援事業を展開します。

2 豊かな自然と共生するまちづくり

水資源の保全

市民共有の財産である地下水を守るため「西条市地下水保全管理計画」を広く周知し、さらなる保全意識の高揚に努めます。

生活環境の整備

快適な暮らしを守るために、循環型社会の構築を目指し、老朽化が著しい道前クリーンセンターの更新整備に着手します。

上下水道の整備

旧市街化区域・隣接区域の浸水防除、生活環境の改善、公共用水域の水質保全のために公共下水道事業を実施します。老朽化が著しい西ひうち専用水道の改良事業を進め、当地域の飲用水の安定供給を図ります。

予算編成方針・主要事業

厳しい財政環境の中、スクラップ・アンド・ビルドを基本に、持続可能な行財政基盤の構築に努めます。加えて、重要度の高い施策については事業を前倒しして合併特例債等を有効活用するなど、行政ニーズに応えるために、めりはりのある予算措置を行いました。

印は「トライアル事業」として試行的に実施します。

1 健やかに生き生きと暮らせる福祉のまちづくり

健康づくりの推進

ICTを活用し、気軽に楽しみながら健康づくりに取り組めるよう「健康ポイント」を付与するなど、健康プラットフォームの構築を進めます。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿の誘致に取り組み、市民の競技力の向上、スポーツ交流人口の拡大を図ります。

石鐘クライミングパークSAIJOに、国内でも数少ない「スピード」競技用の人工壁を整備し、ス



写真：休暇村瀬戸内東予からの眺望



石鎚クライミングパークに人工壁を整備



道前クリーンセンターの更新整備に着手



3月に竣工したCLT生産工場



リニューアルを進めるハイウェイオアシス

※施政方針の全文は市ホームページに掲載しています。



3 快適な都市基盤のまちづくり

交通体系の整備

▼実証導入している加茂地区でのデマンド型乗合タクシーや、山間部交通不便地域のタクシー助成事業の評価・検証などを行います。

▼丹原地区でのデマンド交通の実証運行なども視野に、地域の実情に見合った持続可能な公共交通体系の構築を進めます。

港湾・河川の整備

▼産業競争力の強化や、災害時の緊急物資輸送拠点としての役割が期待される東予港複合一貫輸送ターミナルの整備を促進します。

▼大雨時の浸水地区の解消を図るため、河床掘削などに取り組みます。

公園・緑地の整備

▼都市公園のバリアフリー化を進めるとともに、東部公園・丹原中央公園の平成31年度末供用開始を目指して整備を進めます。

交通安全対策の推進

▼小学校周辺の通学児童が集中する

歩道のない通学路について、舗装打ちかえに合わせて外側線などを引き直し、安全対策を進めます。

4 災害に強く安全で安心して暮らせるまちづくり

防災・減災対策の強化

▼地域住民の生命・身体・財産を火災などから守るため、設置から50年余りが経過している打込式消火栓を順次更新します。

▼河北地区に（仮称）西消防署河北出張所をCLT（直交集成板）工法で整備し、救急業務の地域格差改善や、市全域の消防救急体制の充実強化を図ります。

5 豊かな心を育む教育文化のまちづくり

ICT教育の推進

▼総務省の「地域おこし企業人」制度を活用し、民間企業のノウハウを積極的に生かします。

▼モデル校を中心に、タブレット機器やWiFi（無線LAN）の導入を図ります。

▼2020年度から小中学校で必須化される、プログラミング教育の充実を図ります。

快適な教育環境づくり

▼市内全ての小中学校・公立幼稚園へのエアコン設置に着手します。

歴史文化の保全・活用

▼小松温芳図書館を改修し、貴重な歴史資料を保存管理し活用できる環境を整えます。

6 活力あふれる産業振興のまちづくり

農業の振興

▼「総合6次産業都市」の実現と農地のフル活用に向け、ほ場整備をはじめとする基盤整備事業の着実な推進と、担い手への農地集積、産地化支援に取り組みます。

▼総務省の「地域力創造アドバイザー」制度を活用し、農村起業家や農業経営者の育成・強化対策としてワークショップの開催を通じ、農業生産力の復興に向けた取り組みを進めます。

▼繁忙期の就農体験や、市内先進農家などでの短期就農研修により市外から就農希望者を呼び込み、既存施策と現場の育成機能を連動させ、より効果的な新規就農者の確保・育成に努めます。

林業の振興

▼CLTを活用することで木材需要が飛躍的に拡大し、林業の活性化と雇用創出につながることから、公共施設への積極的な活用など利用促進に取り組み、林業の6次産業化を目指します。

ものづくり産業の振興

▼ベトナムビジネスサポートデスクや大阪事務所を活用し、市内中小企業の国内外における新事業展開や、市場開拓を支援します。

▼新居浜市・四国中央市との「ものづくり3市」で連携し、合同企業説明会の開催など、雇用確保に向けた取り組みを進めます。

▼水素エネルギー関連技術やCLT

観光産業の創出

▼石鎚山系のブランド価値創造に向けて久万高原町、高知県いの町、同県大川村と連携し、石鎚山系の二元的な窓口となるポータルサイト開設などの取り組みを進めます。

▼「石鎚山系の玄関口」を目指し、石鎚山ハイウェイオアシスのリニ

ローカルファンドの創設

▼ローカルファンド（ふるさと基金）創設を目指す第一歩として、既存の補助金制度の一部を活用し、市民の皆さんから投資を募り事業実施するソーシャル・インパクト・ボンド（成果連動型補助金制度）を試行的に導入します。

シテイプロモーションの推進

▼地域住民の誇りや愛着をこれまで以上に醸成するとともに、マスメディアなどに対する効果的な売り込みで、本市の知名度向上を図ります。

▼ユーアルを㈱メンバーと連携して進めます。



写真：考古歴史館からの眺望